



医学部だより

第34号

2017.4.1



ようこそ徳島大学医学部へ

医学部長 丹 黒 章

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。苦しかった受験生活を乗り越え、まさに春の訪れを心から楽しまれていることでしょう。浮かれ気分に水を差す様で申し訳ありませんが、医学部は医療にかかわる国家資格を目指した専門教育を行う場所です。皆さんは将来の選択肢として、人のお世話をするプロフェッションを志しました。よって、この蔵本での学園生活は、一生涯人のお世話ができる心と身体を養うための準備期間であることを自覚してください。

徳島大学医学部は、四国唯一の県立医学専門学校として戦中の1943年に設立され、1945年4月に徳島医学専門学校として官立に移管されました。同年7月、空襲で焼失したため、戦後の1947年に西部第33連隊があったこの蔵本に移転しました。今は無人駅ですが、蔵本駅のプラットホームが駅舎に比べて異様に長いのはここから多くの兵士を戦場に送り出していた名残です。1948年、徳島医学専門学校と徳島高等学校を包括して徳島医科大学に改組され、1955年には大学院医学研究科が設立されました。1964年にはわが国で唯一の医学部栄養学科が設置され、1969年に大学院栄養学研究科が創設されました。更に2001年には保健学科が設立、2006年には大学院保健科学教育部も創設され、全国でも極めてユニークな医学、栄養学、看護・保健医療学という、全人的医療の実践に必要な全ての領域を備えた、高度なチーム医療を担う人材の育成機関としての体制が確立しました。蔵本キャンパス内には、ポストゲノム時代におけるゲノム研究のメッカとして先端研究を推進すべく、1998年に設立された「疾患ゲノム研究センター」と先進的医学科学研究で世界的な研究成果を創出し、世界をリードする多くの人材を輩出してきた「疾患酵素学研究センター」があり、医学部とも密接に連携して研究と教育を担うという恵まれた環境があります。徳島大学医学部の特長は、蔵本キャンパス内にあるような大きな研究施設と薬学部、歯学部を擁しているという

点です。2004年からは国立大学法人徳島大学へと改組され、同時に大学院の医学、栄養学、歯学、薬学研究科を統合、大学院ヘルスバイオサイエンス (Health Biosciences: HBS) 研究部と命名、生命科学教育・研究を行う統合大学院としての新たな歩みがスタートしました。疾患酵素学研究センターの前身である「酵素研」に籍を置かれた研究者の一人に藤井節郎先生がおられましたが、癌や消化器領域の治療薬を発明・開発し、社会に大きく貢献されました。その研究成果から取得された特許料で設立された一般財団法人藤井節郎記念大阪基礎医学研究奨励会のご寄付によって、2013年11月に「藤井節郎記念医学センター」が開設されました。2016年にはこのセンターを含む3つの研究センターを統合して「先端酵素学研究所」に改組されました。また、2015年にはHBS研究部も医歯薬学研究部 (Graduate School of Biomedical Sciences) と呼称を改めました。

医学は単なる生命科学分野の一つではなく、その成果を人類の幸福にどう応用するかを、医療を受ける人の立場に立って考える学問です。医療人とは、高度な生命科学に基づく医学を理解し、医療を実践するための技術を修得するだけでなく、人間性が求められるプロフェッションです。

徳島大学医学部の教育目標は、地域医療へ貢献できる人材育成にとどまらず、生命の摂理と病める人の病態を解明し、その研究成果を基に新しい予防や治療法の開発に貢献できる人材、世界に情報を発信できる国際性とリーダーシップを兼ね備えた人材の育成です。皆さんは、全人的医療を実践する医療人としての自覚と使命感を培い、熱い情熱と自らを客観的に評価できる冷静さをもって、自己開発に努めてください。広く交友して、未知の知見に果敢にチャレンジする仲間を増やし、互いに切磋琢磨してください。研鑽を日々続ければ、卒業時には未見の我に出会うことができるでしょう。健闘を祈ります。

目次

CONTENTS

巻頭言	1	西日本医科学生総合体育大会を終えて	10
新入生の皆様へ	2	徳島大学医学部柔道部全医体2連覇達成!	11
先輩から医学部紹介	4	徳島大学若手研究者学長表彰を受けて	11
学友会活動	5	新任教職員ご挨拶	12
医学部行事予定	5	新任准教授紹介	12
医学科における高大連携の試み	6	退職者ご挨拶	12
徳島医学会報告	7	受賞者紹介(教員)	13
第63回徳島大学解剖体慰霊祭	7	受賞者紹介(学生)	14
蔵本祭	8	編集後記	14
数字で見る医学部	9		



新入生の皆様へ

医学科長 赤池 雅史

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。医師への第一歩を踏み出し、喜びと期待に満ち溢れていることでしょう。さて、皆様は医学基礎 A 棟と図書館蔵本分館の間にある記念碑に気が付きましたか。この碑は中田篤郎博士（徳島大学初代学長・初代医学部長）によるもので、「学者如登山」（学ぶ者山に登るが如し）と刻まれています。これは、学べば学ぶほど山に登るように視野・見識が広がっていくことを意味しています。医学科では、基礎医学研究に興味のある学生のためのサークル活動もあり、3年次には正課として約10か月にわたる研究室配属（医学研究実習）があります。この科目は、他大学と比べて期

間が長く、本格的な研究を行うことができます。また、症例シナリオを用いた問題基盤型学習であるPBLチュートリアル、スキルスラボでのシミュレーショントレーニング、医療系の他学部・学科との専門職連携教育、徳島大学病院や学外関連病院での診療参加型臨床実習など、医療の実践力を育成できる臨床医学プログラムも充実しています。さらに、テキサス大学ヒューストン校（米国）やハノーバー医科大学（ドイツ）等の海外留学プログラムへの参加も可能です。運動系や文化系のサークル活動への参加も大切でしょう。このような環境の中で、多くの人と関わり、様々な経験を積みながら、視野・見識を広げていくことで、皆様が優れた医師に成長されることを楽しみにしています。



新入生の皆様へ

医科栄養学科長 高橋 章

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。これからの大学生活に期待と不安が入り混じった状態と思います。厳しい受験生活を乗り越えてこられた皆様ですので、これから困難に出合ったとしても十分に乗り越えて行けると信じています。

現在日本は超高齢社会を迎え、健康を維持・増進するための栄養学が果たす役割は益々大きくなっています。この中で徳島大学医学部医科栄養学科の学生である皆様には、将来我が国の栄養学の教育・研究において指導的役割を担うことが期待されています。実際に、本学からは歴代の日本栄養士会会長など日本の「栄養学」を支える多くの優れた人材を世に輩出してきた。

さらに時代の要請に応えるべく、平成26年度より栄養学科から医科栄養学科に改組し、新しい教育カリキュラムを準備し充実した臨床教育実習体制を構築しています。医学と栄養学をより結びつけて新たな栄養学を作っていこうとする試みでもあります。新しいことを成し遂げるには、若い発想と行動力が必要です。日本の教育システムは横並びの精神が大切にされるといわれていますが、医科栄養学科では、他の人と異なる点は特長・個性として重要視されます。自分にしかできないことを見つけ出し、さらに磨いてください。これからの栄養学の歴史を作るのは皆様です。

若々しくて輝く将来の入り口に立っている皆様と出会えることを、楽しみにしています。



新しい学生生活のスタートに立つ皆様へ

保健学科長 雄西 智恵美

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。保健学科の教員、在校生一同、ご入学を心より歓迎します。

新入生の皆様は、看護師や診療放射線技師、臨床検査技師、あるいは研究者や教員など自分の将来像を具体的にイメージして入学されている人から、まだ迷いの中にいる人もおられるかもしれません。これからの4年間で専門的な学修はもちろん、サークル活動など様々な活動とおして、情熱を注ぐことができる仕事や将来像を、きっと具体化できることと思います。

徳島大学蔵本キャンパスは、医学部、歯学部、薬学部の3学部があり、医学部は医学科、医科栄養学科、そして保健学科の3学科で構成され、人的、物的にも豊かな学習資源にあふれた学びの場です。特に、多くの患者さ

んが利用され、また多くの医療職が働く大学病院が身近にあることは、医療人を目指す皆様にとって非常に恵まれた環境です。このリッチなキャンパスをどれだけ活用できるか、それは皆様の主体性とやる気にかかっています。これらをフルに活用して充実した大学生活にしてください。

医療が高度で複雑化していくなかで、安心・安全で質の高い医療を求める人々の声はますます大きくなっています。これに応える医療のあり方として、「チーム医療」がキーワードとなっています。学際的なチームの一員として医療に貢献するためには、専門的な知識・技術を習得することは言うまでもありませんが、医療人としての倫理観を基本とした態度が非常に大切です。これからの学生生活にどっぷり浸りながら、医療人としての“自分を育てる”ことに一生懸命に努力してください。


 新入生の皆さんへ

医学科4年次 石元 文乃



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。親元を離れ一人暮らしを始めた方もいらっしゃると思います。これからの新生活に期待と不安でいっぱいでしょう。大学は高校と違い、いろんな自由があります。運転免許を取れたり、20

歳になればお酒が飲めたり、アルバイトをしたり、今までできなかったことができるようになります。新しい友達もできて、部活やサークルに入り、毎日新鮮で楽しいと思います。大学生活の中で勉強以外のことをたくさん経験することはこれからの人生にとってすごく重要なことだと思います。しかし、勉強も忘れてはいけません。私が大学生になって気付いたことは、大学では高校生の時のように受け身の勉強だけではなく、自ら積極的に学ぼうとする姿勢が必要だということです。試験範囲は高校の時とは比べものにならないほど膨大です。レポート課題もあります。学年が上がるごとに内容も難解で量も増えます。私は、テスト前日はほとんど寝ずにテストに臨むこともしばしばなので偉そうなことは言えませんが、自分で勉強の計画を立てて日々コツコツ頑張ることが大事です。医学科の6年間は学ばなければいけないことが膨大で大変なことも多いかも知れませんが、新しい事をたくさん知ることができる楽しさを感じるとと思います。勉強の合間には自分の趣味や興味のあることにもできるだけチャレンジして、大学生活を有意義なものにしてくださいね。

医科栄養学科4年次 足立雄一郎



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。期待に不安に、様々な気持ちを胸にこの医学部だよりを読んでおられることと思いますが、その気持ちは皆さんにとって大きな財産です。限りある大学生活、一瞬一瞬を大切に過ごして

いってほしいと思います。

私が新入生のみなさんに最も伝えたいメッセージは、「チャンスを見逃さない」ということです。先生や先輩の話で興味のあることがあれば、たくさん質問してください。考えたこともなかった部活動やサークル、アルバイトの話を少しでもいいので聞いてみてください。自分とはタイプが違うなあと感じる同輩とも少し話してみてください。その会話の中に、自分をよりよくするチャンスがあるかもしれません。私は1年生の時は阿波踊りに興味はありませんでしたが、今では連長（その団体のリーダー）をするくらい好きになり、一生ものの趣味になりました（医科栄養学科は阿波踊りに力を入れているので、ぜひみなさん気軽に参加してください）。また、少し医科栄養学科らしいことを言うと、毎食何を食べるかというのも一つの選びであり、生活の質を向上させるチャンスだと私は思っています。

大学生活では今まで以上にチャンスが溢れており、自分の選び次第で容易に good は better へと変容します。掴んだチャンスで失敗しても落ち込むことはありません。ぜひ果敢に挑戦し続けてください。

 保健学科看護学専攻4年次
村田実咲季


新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。地元を離れたり、高校時代の友達と離れたり、大学での新しい生活に期待と不安を抱えていることと思います。大学生生活は勉強の他にも新しい友達

との出会いやアルバイト、サークルなど楽しいことがたくさんあります。看護学専攻では、1年次では一般教養と専門科目、2年次からは主に専門科目を学びます。1年次から実習は少しずつありますが、本格的な実習は3年次の後期にあります。それまでにしっかりと授業で学び、その学んだことを忘れずに頑張ってください。これからの4年間、大学生活を後悔の無いように思いっきり楽しんでください。

 保健学科放射線技術科学専攻4年次
上村 和也


新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。これから始まる大学生活に多くの期待や不安を抱えていることと思います。今までと異なり、大学では主体性が関わられ、自分自身の意思次第でこれからの日々を充実させることもできれば、怠惰なものにもできる

のです。大学生活を充実したものにするために、皆さんには勉強はもちろんのこと、部活動やサークル、アルバイトなどの様々な活動に積極的に取り組み、沢山の経験をして欲しいと思います。大学生活は専門知識を身につけるとともに、人間力の基盤を作る大きなチャンスだと思います。今の自分が将来の自分をつくることを忘れずに、これからいろんなことに挑戦し、成長してください。応援しています。

 保健学科検査技術科学専攻4年次
埴淵 悠斗


新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。大変だった受験勉強が終わり、いよいよ大学生活の始まりです。これから始まる大学生活に期待と不安を抱えていることでしょう。

検査技術科学専攻では、講義で知識を、実習で技術を身につけていくのですが、学年が上がるにつれて、その講義や実習が増え、自分の時間を確保するのが難しくなってきます。そのため比較的余裕のある1年次にサークル活動やアルバイトなど様々なことに挑戦してほしいと思います。

新しい環境でのスタートなので、戸惑うこともあるかもしれませんが、友人や先輩と楽しみながら、勉学と私生活をうまく両立して、有意義な大学生活を送ってください。



先輩から医学部紹介

🌸🌸🌸 新入生のみなさんご入学おめでとうございます 🌸🌸🌸

講義について

医学科4年次 笠井 嘉人

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。これから新入生の皆さんが受けられる講義について紹介させていただきます。

まずは講義の形態についてです。大学での講義の一番の特徴は、高校までの授業とは異なり、自分で時間割を好きに選んで組めることです。自分の興味のある講義を受けたり、人気の先生の講義を受けたり自由に選べます。また組み方次第では、午前中で講義が終わる日や講義の無い休日を作ることができます。勉強や運動、趣味など、休みをどう過ごすかは個人の自由です。時間は有効に使いましょう。

次は講義の内容について紹介します。1年生で受ける講義は、大きく「教養科目」と「専門科目」に分けられます。「教養科目」は主に常三島キャンパスで受講し、「歴史と文化」、「人間と生命」、「生活と社会」、「自然と技術」の4分野に分けられます。他にも、高校の保健体育のようなウェルネス総合演習や、英語・独語・仏語・中国語といった語学、数学・物理学・化学・生物学といった基礎的な講義もあります。教養科目は、他の学科と合同で行うため新たな友人を作るチャンスです。「専門科目」は主に蔵本キャンパスで学科別に開講され、

専門的な内容の講義や実習、実験を行います。2年生以降の講義の基礎となり難しい内容を含むため、しっかり勉強する必要があります。

大学は自由に使える時間が多く様々なことに挑戦できる良い機会であり、人生最後の学生生活になります。皆さんが徳島大学で充実した時間を過ごせることを願います。



部活動・サークル活動について

医科栄養学科4年次 相澤 心太

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。私からは部活動・サークル活動について紹介します。大学に入学し、どの部活動・サークル活動に入るか考えている人は多いと思います。

徳島大学には様々な部活動・サークル活動があり、蔵本キャンパスの学生が常三島キャンパスの部活動・サークル活動に入ることも可能です。そのため、部活動・サークル活動に所属することによって多くの学科の人と知り合うことができ、交友関係の幅がとて広がります。また、活動の運営は所属している学生が主体となり行うため、同級生はもちろん、先輩方や後輩たちとも仲良くなることができます。活動時間についてもそれぞれの部活動・サークル活動によって様々です。

部活動はサークル活動よりも練習時間が長く、休日には試合や遠征に行くことなどもあります。多くのサークル活動では練習時間が少ないことから自分の自由な時間が多く、他の部活動・サークル活動を掛け持ちする人もいます。



私は、新入生の皆さんが何かしらの部活動・サークル活動に入ることをお勧めします。しかし、どの部活動・サークル活動に入れば良いのか、と迷うことと思います。そのような時には、自分が興味を持った部活動・サークル活動にどんどん見学に行ってみましょう。部活動・サークル活動の多くは、4月を新歓期としてお花見やバーベキューなどをしています。その場で先輩方や同級生と仲良くなることもでき、部活動・サークル活動の選択肢が広がることもあります。いろいろな部活動・サークル活動のイベントに参加してみてください。

新入生の皆さん、是非自分に合った部活動・サークル活動を探してみてください。そして充実した大学生活を送りましょう。



大学生協について

保健学科4年次 松田 利奈子

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。入学後は新しい生活に喜びの反面、不安もあるのではないのでしょうか。そんな皆さんの大学生活を支えてくれるのが大学生協です。早速ですが大学生協について紹介させていただきます。

蔵本キャンパスには食堂の「SAKU-LA (さくら)」、コンビニの「LUCK-LA (らくら)」、書籍や文具を扱っている「SHOKO-LA (しょこら)」、カフェテリアの「KURA-LA (くらら)」があります。

「SAKU-LA (さくら)」は平日8時から20時まで営業しており、安くて美味しいものが揃っています。週によって限定メニューやフェアがあり、飽きることなく利用することができます。



できます。要望にも応えてくれるので、是非是非リクエスト用紙を活用してみてください。

「LUCK-LA (らくら)」では、食料品、雑貨が販売されています。特にお菓子の品揃えが充実しており、国試シーズンになると合格を祈願したお菓子なども販売され、差し入れを買うのにも便利です。

「SHOKO-LA (しょこら)」では、講義で使う書籍や参考書、国試対策のための問題集、文具を購入することができます。さらに、自動車教習所の申し込みや旅行の手配、帰省の際のバスの申し込みもできます。

「KURA-LA (くらら)」では、お弁当や飲み物が販売されており、多くの人々が利用しています。向かいにあるカフェテリアスペースで食べることができ、天気の良い日には外のテーブルで食事をすることもできます。オシャレな空間でゆったりとした時間を楽しんでみてはいかがでしょうか。

簡単ではありますが、大学生協について紹介させていただきました。大学生協は大学生活をより充実したものにしてくれます。是非是非活用して、大学生活を楽しんでください。

学 友 会 活 動

●運動部

	クラブ名	助言・指導教員
1	水上競技部(男女)	河合 慶親
2	弓道部(男女)	丹黒 章
3	硬式野球部	北川 哲也
4	柔道部	谷 憲治
5	空手道部(男女)	丹黒 章
6	卓球部(男女)	香美 祥二
7	バドミントン部(男女)	西岡 安彦
8	サッカー部	高橋 章
9	ゴルフ部(男女)	苟原 稔
10	バスケットボール部(男女)	川人 伸次

●文化部

	クラブ名	助言・指導教員
11	合気道部(男女)	上野 淳二
12	水泳部(男女)	松香 芳三
13	硬式庭球部(男女)	福井 清
14	軟式庭球部(男女)	森 健治
15	陸上競技部(男女)	福井 清
16	準硬式野球部	島田 光生
17	ラグビー部	鶴尾 吉宏
18	剣道部(男女)	久保 宣明
19	バレーボール部(男女)	岡久 稔也

	クラブ名	助言・指導教員
1	ジャグリングサークル	渡辺 浩良
2	軽音楽部	橋本 一郎
3	茶道部	竹谷 豊
4	地域医療研究会	谷 憲治
5	栄養学研究部	酒井 徹
6	外国語研究会	福井 清
7	室内楽同好会	赤池 雅史
8	TIFMSA(徳島国際医学生連盟)	赤池 雅史
9	先端医療研究会	佐田 政隆

※入部等のお問合せについては、医学部学務課学生係 (☎088 - 633 - 7982) へご連絡ください。

医学部行事予定 (平成29年4月～平成29年9月)

4月3日(月)～7日(金)
 医学部新入生オリエンテーション
 SIH 道場～アクティブ・ラーニング～
 (医学科、医科栄養学科、保健学科)
 4月4日(火) 学生定期健康診断
 (医学科・医科栄養学科1年次)
 4月5日(水) 学生定期健康診断
 (保健学科1年次)
 4月6日(木) 徳島大学入学式
 医学部新入生オリエンテーション
 (13:30～大塚講堂)

4月8日(土) 医学部新入生研修
 (於：大塚講堂ほか)
 4月10日(月) 新入生授業開始
 (医学科、医科栄養学科、保健学科)
 4月21日(金)～27日(木)、5月8日(月)
 学生定期健康診断
 (医学科・医科栄養学科・保健学科2年次以上)
 8月5日(土)～ 西日本医科学生総合体育大会 (主管：山口大学)
 8月7日(月)～9日(水) 徳島大学オープンキャンパス (学部説明会)
 (医学科、医科栄養学科、保健学科)



医学科における高大連携の試み

医学部長補佐(組織運営関係担当)
統合生理学分野 教授 勢井 宏 義

大学での教育は、学生が高校までに受けてきた教育に大きく左右される。大学のシステムがどのように高度に企画・実践されても、学生の受け皿にまったく合わなければ、教員も学生もただ時間を浪費するだけになる。このため、高校と大学が連携して入試・教育改革を進めていくことが重要である。平成27年1月、文科省から「高大接続改革実行プラン」が提示された。重視する視点として5項目が挙げられているが、その中に次のような項目がある。「特に、義務教育段階の取組の成果を進展させ、高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜を通じて、「知識・技能」のみならず、「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力」(以下「思考力・判断力・表現力」という。)や主体性をもって多様な人々と協働する態度(以下「主体性・多様性・協働性」という。)などの真の学力の育成・評価に取り組むこと」。

徳島大学でも、昨今、“アクティブラーニング”の重要性が謳われている。そこには、学生の主体的自主的な学習意欲態度を必要としているが、それらが高大連携のキーワードにもなっていることが分かる。思考力・判断力・表現力はまだしも、主体性・多様性・協働性を、高大が連携してどのように育成したら良いのか、あるいは、入試においてどう評価すればよいのか、議論は尽きないと想像される。手元の医学科カリキュラムに目を落とせば、実習や実験、演習のように小グループで手を動かす科目の方が、講義のような座学よりも有効であろうと予測される。

そのような状況下、医学科は県内外の高校から体験実習を引き受けている。徳島市立高校を例として紹介すると、「理科科セミナー(高校側の名称)」として毎年40数名の1年生が訪れている。本セミナーは朝9時から16時過ぎまで、丸一日を費やして行われる。午前は基礎医学の体験、午後は臨床医学の体験、お昼休みは研究室見学としている。午前は筆者が主に担当し、まず、講義室で模擬講義(実習の説明)を体験したあと、

実習室に移動して基礎的な実験を体験する。生徒を3グループに分け、①DNA extraction from saliva(写真1)、②マウスの血糖測定、③Finding your own blind spotsの3項目をローテーションする。①と③には留学生や英語教員をインストラクターとして配置し、英語で実施している。午後の臨床医学の体験は医療教育学分野の赤池雅史教授が主となって、シミュレータを利用しながらスキルス・ラボで行われる。①聴診、②衛生的な手洗い、③採血、④縫合(写真2)、⑤救急蘇生の5項目であり、項目ごとに医師や看護師、医学科生が付いて指導している。生徒へのアンケートや担当高校教員からの評価は高い。学習のモチベーションや、進学についての目標の具体化などに役立っているようである。そのように貢献できていることを筆者は満足しているが、生徒の成長が追えないところに物足りなさも感じている。

本セミナーの現場では生徒との距離が近く、主体性や積極性、協働性、理解力、英語での発信力など、生徒間の差を比較的明瞭に感知できているのではないかと考えている。生徒のキャラクターを肌で感じられるのである。恐らく高校の先生方には、各生徒の弱い部分を補強していくという教育が大切であろう。一方、医学科の教員としては、医学科、あるいは医師が必要とする資質の芽を持ち合わせている生徒について、勿論、生徒本人の将来ビジョンが第一であるが、そのビジョンが医学科と合えば、高校と一緒に生徒の資質をより伸ばしていく、ということも可能ではないだろうか。

学部学科の選択は職業の選択に強く連結し、特に、ライセンスを必要とする職業については進学時の適性判断は重要である。この体験実習が、学習へのモチベーションを高めるだけでなく、生徒にも先生方にも、有効な適正判断の機会になることを心から願っている。地域に埋まるダイヤモンドの原石を見つけるというような楽しみも感じながら、今後、対象校を更に増やしていきたいと考えている。



写真1：基礎医学の体験 (DNA extraction from saliva)



写真2：臨床医学の体験 (縫合)

徳島医学会報告

■ 第254回徳島医学会学術集会（平成28年度冬期）

疾患治療栄養学分野 教授 濱田 康 弘
 麻酔・疼痛治療医学分野 教授 田 中 克 哉

第254回徳島医学会学術集会は、平成29年2月19日(日)に、本学の大塚講堂で開催された。今大会の本学側の担当は、疾患治療栄養学分野教授の濱田康弘と麻酔・疼痛治療医学分野教授の田中克哉が務めた。また、実務については、疾患治療栄養学分野助教の鈴木佳子先生と徳島大学病院麻酔科講師の酒井陽子先生が担当した。寒い中にもかかわらず、参加者は200名ちょうどであった。

濱田の開会挨拶に続き、3名の教授による教授就任記念講演が大ホールで行われた。最初に、血液・内分泌代謝内科学分野教授の安倍正博先生による「骨髄微小環境と骨髄腫の進展」、次に顕微解剖学分野教授の鶴尾吉宏先生による「形態学的観点から見た生体調節物質の働き」、最後に地域医療人材育成分野特任教授の川人伸次先生による「周術期の血管機能保護戦略」の講演が行われた。引き続き、ロビー1階、2階を使用した第2会場において、一般及び若手のポスターセッションが各々行われ、総計43演題の研究成果が発表され、質疑・討論が活発に行われた。

午後からは、大ホールにおいて、苛原稔徳島医学会会長と齋藤義郎徳島県医師会会長の挨拶の後、前大会で選出された第37回徳島医学会賞及び第16回若手奨励賞の授与式が行われた。徳島医学会賞は、徳島市医師会の岡部達彦先生に授与され、若手奨励賞は、徳島大学病院卒後臨床研修センターの

村上貴寛先生と蔭山彩人先生に授与された。受賞記念講演として、岡部先生による「徳島市医師会が運営する徳島市地域包括支援センターの取り組み」の講演が行われた。

公開シンポジウム「がんに対するチーム医療最前線」では、4名のシンポジストによる講演が行われた。がん疼痛管理の立場から、獨協医科大学医学部麻酔科学講座主任教授の山口重樹先生による「痛みを負けない、がんを負けないために知っておくべきこと～痛みの訴え方から最新の痛みの治療について～」の講演、ホスピス緩和ケアの立場から、近藤内科病院看護師の住友美智子先生と看護部長の谷田典子先生による「ケアをとおして癒し癒されるホスピス緩和ケア」の講演、外科医の立場から、徳島大学病院食道・乳腺甲状腺外科講師の吉田卓弘先生による「食道癌に対する手術治療について」の講演、栄養サポートチームの立場から、疾患治療栄養学分野助教の鈴木佳子先生による「がん患者さんの栄養管理を支える栄養サポートチーム（NST）」の講演が行われた。現代医療においては不可欠な、チーム医療に対する理解の深まる、示唆に富んだ貴重な講演内容だった。

最後に、今回のポスターセッションの中から選考された第38回徳島医学会賞及び第17回若手奨励賞の選考結果の発表が、徳島県医師会の大塚明廣先生から発表され、その後、閉会の挨拶が麻酔・疼痛治療医学分野教授の田中によって行われ、盛況のうちに閉会した。今回も多数の参加者にお越し頂き、大きなトラブルなく無事終了することができた。今大会の開催にあたりご協力頂いた徳島県医師会及び徳島医学会事務局関係各位に心より深謝申し上げたい。



第63回 徳島大学解剖体慰霊祭

蔵本事務部医学部学務課



平成28年10月12日(水)15時から徳島大学大塚講堂において、第63回徳島大学解剖体慰霊祭が開催され、御遺族、白菊会会員、医学部・歯学部・病院教職員、学生等関係者540人が参列いたしました。献体者の霊に黙祷を捧げた後、医学部長、歯学部長をはじめとする関係者が追悼の辞を述べ、その後参列者全員が祭壇に白菊を献花し、系統解剖、病理解剖のために献体して下さった方々の亡き御霊6,324柱の御冥福をお祈りしました。献体運動等の活動により、献体に対する世間の理解が益々深まってきております。今後も引き続き献体に対するご理解とご協力をお願いいたします。

蔵 本 祭

奏でYo！ぼくらっ！

第32回蔵本祭実行委員長 医学科5年次 平山 暄土

第32回蔵本祭実行委員長を務めさせていただきました、平山暄土です。平成28年度も、学術講演などを含め計4日間にわたって様々なイベントを開催することができました。

今回の蔵本祭は、「奏でYo！ぼくらっ！」をテーマとしてやって参りました。蔵本キャンパスの各学科学生だけでなく、蔵本地域全体の方々がそれぞれの楽しみ方で蔵本祭を満喫し、一人一人の音を奏で、「ぼくら」全体の一つの大きな音を作り出そうという思いを込めています。また、平成28年度は昨年度同様に、一昨年度より開催日が1日少なくなりましたが、大塚講堂も使用可能となり、今までに劣らない蔵本祭を作りたいこうと、沢山の方と共に奮闘して参りました。

当日は天候が心配されましたが、大きな問題も無く何とか全てのイベントを無事終えることができました。今回は蔵本祭ならではの医歯薬企画などの広報活動に特に力を注ぎ、多くの来場者楽しんでいただくことができたと思います。今回、蔵本祭に携わって来て、本学関係者をはじめ、商店街やメディアの皆様な

ど沢山の方々に支えられて、蔵本祭が成り立っているということ学びました。後輩の皆さんにもこのような貴重な経験を得ることができるよう、今秋に予定されている第33回蔵本祭の成功をお祈りいたします。最後になりましたが、第32回蔵本祭開催にあたりご尽力くださいました皆様方に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。



栄養学展を終えて

第32回蔵本祭栄養学展委員長 医科栄養学科3年次 石田 快

栄養学展は蔵本祭で出展する催し物のひとつで、医科栄養学科における毎年恒例のイベントのひとつでもあります。医科栄養学科の2、3年生から有志を募り、毎年ひとつテーマを考え、そのテーマにあった展示と料理を来場された皆様に無料で提供するというもので、医科栄養学科ならではの催し物と言えます。

さて、平成28年度の栄養学展は「カレーライス」がテーマとなりました。昨年度が「精進料理」、一昨年度は「プロバイオティクス」というテーマであっただけに、拍子抜けされた方も多かったはず。中には医学部の学生としてこの



テーマはいかがなものかと眉をひそめる方もいらっしゃったかもしれません。しかし、身近過ぎるものだからこそ、その有用性と美味しさ、そして医科栄養学科ならではの視点から「カレーライス」について学んで頂きたいという思いを込めて、提供させていただきました。

当日は多くの方にご来場いただき、アンケートからも生の声でも様々な意見をいただきました。多数のお褒めの言葉も頂きましたが、中には厳しいお言葉や更なる改善点もいただきました。計画・立案段階から蔵本祭終了までのすべての行程、ご来場された方々から頂いたお言葉、そして関わらせて頂いた方々との関わり、これらすべてが私たちの経験になったと感じています。この貴重な経験を活かし、医科栄養学科生として恥じない行動を更にしていきたいと考えております。

最後に、栄養学展にご来場いただいた皆様、栄養学展委員と実行委員の方々、そしてご協力いただいた先生方に心より御礼申し上げます。

模擬病院を終えて

第32回蔵本祭模擬病院委員長 保健学科看護学専攻3年次 山本 奈津子

模擬病院は看護学専攻1、2年生の中で委員を集め、運営しております。毎年、学内だけではなく、学外の方にも多く来訪していただき看護学専攻としても力を入れているイベントの一つです。

2016年の模擬病院では、手浴、身体測定、母性体験の体験企画に加え、すべての体験をしていただいた方に飲み物とお菓子の提供を行いました。

今年は、約400名の方に来訪していただきました。強風の中にもかかわらず多くの方の来場にとっても感謝しております。毎年、模擬病院に来場して下さっている方、アドバイスをくださる方、楽しみにしていると言ってくださった方に恥じない模擬病院を作ろう、成功させようとしていただきましたが、まだまだ至らぬところが多く、反省の多いものとなりました。

反省は次回の模擬病院に反映させ、より良いものとなるようにしなければならぬと感じています。

最後になりましたが、模擬病院にご来場いただいた皆様、物品準備や会場の設営などのために休みに関わらず協力してくださった先生方に心よりお礼申し上げます。



数字で見る医学部

～平成29年3月卒業者の進路状況～

H29.3 現在

医 学 科	
進 路 先	合計
石川県立中央病院	1
市立吹田市民病院	1
一般財団法人住友病院	1
浦添総合病院	1
愛媛県立中央病院	1
大阪市立総合医療センター	1
大阪市立大学付属病院	1
大阪警察病院	1
大阪府済生会茨木病院	1
岡本記念病院	1
岡山医療センター	1
小倉医療センター	1
神鋼記念病院	1
北播磨総合医療センター	2
京都桂病院	1
倉敷中央病院	4
高知赤十字病院	1
江南厚生病院	1
甲南病院	1
神戸大学病院	1
神戸西市民病院	1
国立国際医療研究センター病院	1
国立病院機構 相模原病院	1
静岡県立総合病院	1
済生会吹田病院	1
製鉄記念室蘭病院	1
聖マリア病院	1
聖隷浜松病院	1
総合大雄会病院	2
高松赤十字病院	3
千船病院	1
中京病院	1
東京女子医科大学東医療センター	1
東京女子医科大学付属八千代医療センター	1
徳島県立中央病院	8
徳島市民病院	3
徳島赤十字病院	9
徳島大学病院	18
独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター	1
豊見城中央病院	1
長崎医療センター	1
鳴門病院	4
西神戸医療センター	1
日本赤十字社 伊勢赤十字病院	1
浜松医科大学医学部付属病院	1
東広島医療センター	1
兵庫医科大学病院	1
兵庫県立尼崎総合医療センター	2
広島赤十字・原爆病院	1
広島大学病院	1
藤枝市立総合病院	1
北海道大学病院	1
前橋赤十字病院	1
横浜市立みなと赤十字病院	1
吉野川医療センター	3
山梨大学医学部附属病院	1
耳原総合病院	2
大阪府済生会中津病院	2
土庫病院	1
福岡県済生会福岡総合病院	2
山下警備	1
小 計	111
未定	2
合 計	113

栄 養 学 科	
進 路 先	合計
アドバンテック株式会社	1
小川珈琲株式会社	1
オハヨー乳業	1
株式会社 島津テクノリサーチ	1
魚国総本社	1
シップヘルスケアフード(株)	1
ダイキン工業(株)	1
徳島製粉株式会社	1
徳島赤十字病院	1
医療システム研究所	1
株式会社 光洋	1
株式会社 万協製菓	1
株式会社セブンアンドアイフードシステムズ	1
健祥会グループ	1
四国医療サービス株式会社	1
社会福祉法人 あかね	1
日亜化学工業株式会社	2
富士産業株式会社	1
三菱京都病院	1
社会医療法人社団 正峰会 大山病院	1
愛媛銀行	1
小 計	22
大 学 院 進 学	
徳島大学大学院栄養生命科学教育部	27
東京大学大学院進学	1
小 計	28
未定	4
合 計	54

保健学科：看護学専攻	
進 路 先	合計
徳島大学病院	12
徳島赤十字病院	4
大阪大学医学部附属病院	4
兵庫医科大学病院	2
岡山市立市民病院	2
徳島県立病院	1
徳島市民病院	1
大阪医科大学病院	1
神戸大学附属病院	1
徳島県看護協会訪問看護ステーション	1
香川大学医学部附属病院	1
高知県公立学校教員	1
愛媛県立病院	1
西神戸医療センター	1
加古川中央市民病院	1
大阪赤十字病院	1
関西医科大学附属病院	1
大阪医科大学附属病院	1
北野病院	1
大阪市立総合医療センター	1
川崎医科大学附属川崎病院	1
倉敷中央病院	1
J R 広島病院	1
山口大学医学部附属病院	1
昭和大学藤が丘病院・藤が丘リハビリテーション病院	1
信州上田医療センター	1
静岡県立総合病院	1
聖路加国際病院	1
徳島県職員	4
藍住町職員	1
和歌山市職員	1
高松市職員	2
尼崎市職員	1
岡山県職員	1
広島県職員	1

姫路市職員	1
岸和田市職員	1
小松島市役所	1
淡路市役所	1
上板町役場	1
小 計	63
大 学 院 等 進 学	
徳島大学大学院保健科学教育部	8
徳島文理大学助産学専攻科	1
大阪大学大学院	1
名古屋大学大学院	1
小 計	11
未定	5
合 計	79

保健学科：放射線技術科学専攻	
進 路 先	合計
徳島大学病院	2
徳島赤十字病院	2
川島病院	1
和歌山県立医科大学付属病院	1
独立行政法人地域医療機能推進機構大阪病院	1
北九州市立病院	1
加古川医療センター	1
特定医療法人 清翠会 牧病院	1
神戸大学病院	1
山口赤十字病院	1
古賀総合病院	1
宇治徳洲会病院	1
河畔病院	1
和歌山労災病院	1
赤穂市民病院	1
大阪府済生会吹田病院	1
市立伊丹病院	1
明石市民病院	1
兵庫県職員	1
岡山大学病院	1
武田総合病院	1
小 計	23
大 学 院 進 学	
徳島大学大学院	10
小 計	10
未定	0
合 計	33

保健学科：検査技術科学専攻	
進 路 先	合計
徳島大学病院	2
吉野川医療センター	2
沖洲病院	1
川島病院	1
高知赤十字病院	1
医療法人青仁会池田病院	1
高知大学病院	1
愛媛大学病院	1
神戸百年記念病院	1
京都桂病院	1
出雲市立総合医療センター	1
JA 静岡厚生連	1
有限会社パソテック	1
小 計	15
大 学 院 進 学	
徳島大学大学院	3
小 計	3
未定	0
合 計	18

西日本医科学生総合体育大会を終えて

第68回西日本医科学生体育連盟理事長
皮膚科学分野 教授 久保 宜明

平成 28 年度、会長の苛原稔医学部長先導のもと第 68 回西日本医科学生総合体育大会（通称、「西医体」）を主管しました。徳島大学が代表主管を務めるのは 41 年振りでした。私は平成 27 年度から医学部学友会総務部長を務め、平成 28 年度連盟理事長を務めさせていただきました。まだ仕事は残っていますが、これまでを振り返ってみたいと思います。

平成 26 年 8 月初め、当運営委員会メンバー 4 人とともに金沢での第 66 回西医体第 2 回理事会と開会式に出席しました。何の知識もなく参加し、理事会では西日本各大学の理事から多岐にわたる厳しい指摘や質問があり、雰囲気には圧倒されたまま理事会と開会式を終えました。終了後もよく理解できておらず、2 年後に自分が連盟理事長として理事会を仕切らなければならないことに気付くまで時間がかかりました。大会期間中の徳島市の阿波踊りが心配でしたが、徳島に戻った後に競技日程を検討したところ、石川県でも金沢市以外や他県でも多くの競技を行っていることがわかり、同じようにすれば徳島市の阿波踊り期間を避けることができるだろうと運営委員会メンバーに伝えました。

西医体は本学の医学部生からなる運営委員会（メンバー 23 人、大会時点で主に 4 年生）が主体的に準備、運営し、医学部の学友会と医学部学務課がサポートする形です。平成 26 年夏以降、旅行会社や保険会社の選定など重要な決定事項には、医学部学務課の森課長（当時）、桑村学生係長や私が同席し助言しましたが、最終的に学生がすべてを決めました。梶翔馬運営委員長（医 4）、小池和生競技委員長（医 4）らを中心にしっかりと大会の準備を進めてくれました。理事会では安富苗波子連盟書記局長（医 5）らが、学生主体の評議会では百田和貴評議委員長（医 4）らが、準備・運営を頑張ってくれました。

運営委員会が考えた今大会の大会方針は「踊らにゃ損々 アワ五輪！」でした。偶然にも地球の裏側のリオ五輪とちょうど同時開催ということもあり、徳島での西医体は医科学生にとってまさにアワ五輪だったと思います。7 月 30 日の開会式

後の懇親会では、医科栄養学科の連が見事な阿波踊りを披露してくれました。大会は 8 月 6 日（土）～ 21 日（日）の 16 日間に 20 種目の競技が行われ、10 月 1 日の閉会式で全日程を終了しました。天候には恵まれましたが、予想どおりの猛暑が続きました。熱中症は発生数 24 件、搬送数 9 件で、同じく猛暑だった前年の大阪大会とほぼ同数（発生数、搬送数ともに 1 件増）でしたが、怪我については件数が少なく、後遺症を残すような大きなものもありませんでした。これも根岸佑典安全対策委員長（医 4）、鈴木亮熱中症対策委員長（医 4）、石川航平ラグビー安全対策委員長（医 4）らの尽力によるものでした。また、全競技にわたる膨大な会計も、古賀文貴総務会計委員長（医 4）、花田康平競技会計委員長（医 3）らがきちんと処理してくれ、香川・高知両大学の各理事と私が確認しました。

徳島大学の主な成績は、ゴルフ部が男子団体優勝、柔道部が団体 3 位、総合成績は第 24 位でした。代表主管ということもあり、前回大会の総合成績第 19 位を上回る結果を期待していましたが、やはり各部門での準備、運営に多大な労力を費やしてしまったのかもしれません。なお、私が大会委員長を務めた剣道部門（写真）では、男子団体がベスト 8 でした。前回大会では男子団体 4 位でしたので今大会はそれより上を目指していましたが、残念ながら前回大会の結果に及びませんでした。

振り返ると、この 2 年間はあっという間だったように感じます。二十歳過ぎの若い医学部生はよく頑張りました。医学部生のポテンシャルの高さを実感しています。運営委員会メンバーや各競技担当者にとって、一生記憶に残る経験になったことと思いますし、将来医師として必要な人間力を養う大変良い機会にもなったことと思います。

最後になりましたが、派遣医師として会場にお越しいただきました先生方や各競技団体の方々をはじめ、第 68 回西医体の準備、運営にご助力ご尽力いただきました皆様方に心より御礼申し上げます。



剣道部門 鳴門・大塚スポーツパークにて 平成 28 年 8 月 21 日



第 68 回大会ポスター

徳島大学医学部柔道部全医体2連覇達成!

医学部柔道部主将
医学科5年次 本吉 司

9月18日(日)に徳島県立中央武道館で開催された、第50回全日本医科学生体育大会王座決定戦柔道競技男子団体戦で、徳島大学医学部柔道部が優勝し、見事2連覇を達成しました。8月7日(日)に徳島で行われた第68回西日本医科学生総合体育大会では、惜しくも愛媛大学に敗れ3位でしたが、今大会ではリベンジを果たす結果となりました。

今大会は徳島大学、東海大学、愛媛大学、群馬大学の4校でリーグ戦を行いました。

初戦は東海大学との対戦となりました。東海大学は今年の東日本医科学生総合大会で優勝を収めた強豪校です。また、去年の全日本医科学生体育大会王座決定戦では決勝戦で激闘を繰り広げた相手でもあります。まず、先鋒の仁紙泰志選手が袖釣込み腰で見事に一本を決めると、続く次鋒の宮崎選手も一本背負いで一本勝ちを決めました。中堅戦は相手のポイントゲッ

ターに敗れてしまいましたが、副将の本吉選手、大将の仁紙祐人選手は共に支え釣り込み足で一本勝ちを収めました。

2戦目は長年のライバル校である愛媛大学でした。先鋒戦は相手のポイントゲッターに敗れてしまいましたが、続く次鋒の山村選手が返し技で有効をとり、優勢勝ちを収めると、中堅戦、副将戦、大将戦では抑え込みにより一本勝ちを決めました。今年の西日本医科学生総合体育大会のリベンジを果たすことができました。

最終戦は東日本医科学生総合大会でベスト4に進出した群馬大学との戦いでした。

今大会では選手が4人と、1人欠けての出場となりましたが、非常に勢いのあるチームです。まず先鋒戦では6年生の中嶋選手が出場しました。勉強の多忙な中、休むことなく稽古に励む中嶋選手は、その練習の成果を存分に発揮し、見事抑え込みで一本勝ちを収め、最後の試合を有終の美で飾りました。続く次鋒戦では荒川選手がまたしても抑え込みで一本勝ちを決め、中堅戦は不戦勝、副将戦では絞め技で一本勝ちを決めました。大将戦では惜しくも敗れてしまいましたが、見事、本大会にて優勝を収めることができました。

今大会での優勝は、日頃より熱心にご指導くださる、永廣先生、清水先生、またいつも応援してくださる多くのOBの先生方、本校の先生方、そして関係者の皆様のお力添えがあったからこそです。これからも部員一同、ますます精進してまいりますので、是非、応援の程よろしくお願いたします。



徳島大学若手研究者学長表彰を受けて

病態生理学分野 助教 桑野由紀

この度は若手研究者学長表彰という栄えある賞に選出いただき、本当にありがとうございます。私は現在、病態生理学分野六反教授のもとにて“タンパク質をコードしないRNA-機能性非コードRNA”の研究を行っております。特に、進化の過程でマウス以上の高等動物のゲノムに組み込まれ、100%保存された超保存領域(UCR, ultraconserved region)より作られるRNA群と発がんとの関連に焦点を当てています。キャリアはまだ浅いですが、私なりに研究について心掛けていることがふたつあります。一つは、繰り返しを厭わないこと。実験は手法や細胞等のコンディションによって、結果が一定しないこともあります。「研究(Research)とは“Re”“Search”すること、何度も検討を繰り返すことである」と、3年間のアメリカNIH研究所での留学で学びました。二つ目は、アンテナを常に張り巡らせること。研究の方向性に行き詰ったとき、たまたま聞いた学会発表、目についた論文、同僚の助言、大学院生の率直な意見などから思いもよらない解決を導くことがあります。外部からの情報を柔軟に受け取り、常に自分の研究に変換してやる必要があると考えています。私もまだ実践できているとは言い難いのですが、いろいろな分野の方とコミュニ

ケーションを取ること、思わぬ共同研究に繋がることもあります。

基礎医学研究は、時には成果が直接見えにくく、本当にこの先は臨床に続いているのか不安になることもあります。教科書にまだ載っていない、誰も知らない現象を一番に見ることができる、ということが研究のモチベーションになっています。

最後になりましたが、このような素晴らしい賞にご推薦くださった苛原前医学部長、ご指導下さった六反教授をはじめとする諸先生方に厚く御礼申し上げます。



研究発表にて

新任教職員ご挨拶



食品機能学分野 教授 河合 慶 親

平成 28 年 11 月 1 日付けで食品機能学分野教授を拝命いたしました。私は愛知県名古屋市出身で、平成 10 年に名古屋大学農学部応用生物科学科を卒業し、同大学院生命農学研究科博士課程を修了後、平成 15 年に徳島大学医学部助手（食品学講座）に採用されました。学生時代より、酸化ストレス反応やポリフェノールの機能性を中心とした化学生物学研究を続けております。平成 20 年より、米国国立衛生研究所（NIH）

へ留学する機会もいただきました。その後、平成 23 年より名古屋大学大学院生命農学研究科准教授を経て、平成 27 年 4 月より食品機能学分野准教授として再度本学に着任しております。当分野では、特に化学を基盤として食品とヒトの健康に関する諸問題に取り組んでいける人材の社会への輩出とともに、食品機能性研究の次世代を担う若手研究者の育成を目指して、教育・研究に取り組んでおります。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



微生物病原学分野 教授 野間口 雅 子

平成 28 年 12 月 1 日付で微生物病原学分野教授を拝命いたしました。私は福岡県出身で、平成 9 年に東京農工大学大学院農学研究科を修了しました。研究開発員として企業に在籍中、3 年間の米国留学（カンザス大学とジョージタウン大学）でウイルス学研究と出会い、この道を究めるために平成 19 年、当分野に助手として着任しました。ウイルスは「最小の生命体」として全ての生物に存在します。また、ヒトが生存する限り感

染症との攻防が尽きることはありません。ヒポクラテスの時代からインフルエンザと対峙し、現在も、エボラ出血熱や SARS など新興・再興感染症の脅威に曝されています。当分野では、学問的好奇心を持って基礎ウイルス学に根ざした独創的な研究に邁進するとともに、医師・医学研究者を志す学生が、感染症に責任感・使命感を持って対応できるよう教育にも貢献していく所存です。今後ともご指導・ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

新任准教授紹介

異動年月日	異動内容	氏名	所属
H29. 4. 1	昇任	富永辰也	生体機能解析学分野



退職者ご挨拶



機能解剖学分野 教授 福井 義 浩

平成 4 年 6 月に徳島大学に赴任してから早 25 年が経とうとしています。四半世紀を徳島大学で過ごしたことになります。最初は解剖学教育の基盤である遺体蒐集業務の体制作りに苦労しましたが、その後はあっという間に時間が流れた様に感じています。

医療科学大学)、村井恵技術補佐員のサポートでなんとか研究は進展しました。医学科長、教務委員長、附属図書館長としては一貫して学生の自主学習支援を行いました。さらに、クリニカルアナトミー教育・研究センターの立ち上げの際は、安井前病院長、東野特任准教授、金山センター長、病院事務職員、白菊会会員の協力も得られて楽しく仕事ことができました。

4 月からは、新たな環境で学生教育に尽力したいと思います。歴史ある徳島大学で教育研究活動ができましたことに感謝申し上げます。



脳神経外科学分野 教授 永 廣 信 治

平成 29 年 3 月末をもって脳神経外科学分野教授を退くことになりました。平成 9 年 2 月に熊本大学から徳島大学教授に転勤して以来、20 年間の長きにわたり教育、研究、診療に取り組んでまいりましたが、元気に当職を全うできたのも教職員やスタッフ、学生さん方のおかげと心から感謝いたしております。先日、「医道の心技体、～医学生、医療人へのメッセージ」と題して最終講義を行ったところ、多数の学生さんや教職員の方々に聴講していただきました。私は脳神経外科医であり、教師であり、柔道家でもありますので、志や心の持ち方の重要性、

良き恩師を得るために一期一会の出会いを大切にすること、自分の専門や subspecialty を選択する際には得意技だけでなくいくつかの技に取り組み専門性の深さと広さを追及すること、医学に研究は必須であり研究心を持つために研究に没頭する時間を持つこと、どんなに忙しくても必ず一つは趣味を持ち人生を楽しむこと、医師としての大きな喜びは治療した患者さんからいただく感謝の言葉や手紙であり、「精力善用 自他共栄」の精神で医療人としての人生を全うしてほしいことなどを話しました。4 月から専任の徳島大学病院長として恩返しのため徳島大学に貢献するつもりですので、引き続きよろしくお願い申し上げます。



医用画像情報科学分野 教授 近藤 正

平成29年3月に定年退職いたしました。徳島大学には、医療技術短期大学部ができた昭和63年に着任してから28年間お世話になりました。平成13年には保健学科になり、平成20年には大学院博士後期課程が設置され、保健学科とともに歩んできました。この間、学内の多くの方々のお力添えを頂き無事に定年まで勤めることができました。心から感謝を申し上げます。

工知能を使ったコンピュータ制御システムの研究開発をしていました。徳島大学に来てからは、人工知能理論の研究開発とその医学応用（コンピュータ支援画像診断システムの開発）研究を行いました。

企業では研究テーマが決まっています。数学理論的な研究ができませんでしたが、大学では研究テーマを自分で決めることができ、研究の自由があり本当に充実した研究生活を送れたと思います。数学的な人工知能理論がどこまで進化して人間の脳の情報処理に近づくことができるのか大変興味があり、今後も人工知能理論の研究開発とその医学応用研究（人工知能による病気の診断支援システムの開発）を続けて行きたいと思っています。



生体機能解析学分野 教授 齋藤 憲

平成29年3月末で徳島大学を退職することになりました。平成13年10月医学部保健学科設立以来、15年6カ月（前任の医療短大を含めると27年間）の長きにわたり、ご協力を頂きました諸先生、職員の方々には厚くお礼申し上げます。教育に関しては、着任当時、実習室には十分な設備が無く、2度の文部省の教育設備改善経費で一通りの生理検査機器を揃える

事ができました。学生には専門性を生かしてチーム医療の中で積極的に自分の意見を言える臨床検査技師を目指すように指導しており、その成果は毎年、国家試験合格率ほぼ100%という形で表れています。研究面での整備は平成18年に博士前期課程、平成20年に博士後期課程が設置され、年々、大学院進学希望者も増えており、大学院卒業生も臨床の専門分野で活躍できるようになりました。徳島大学と医学部保健学科の今後の益々のご発展を祈念して退職の挨拶とさせていただきます。

教育に関しては、着任当時、実習室には十分な設備が無く、2度の文部省の教育設備改善経費で一通りの生理検査機器を揃える

◆◆◆ 受賞者紹介 ◆◆◆

平成28年度岡奨学賞

堀ノ内 裕也（薬理学分野 助教）
※医学部、先端酵素学研究所において、基礎医学における研究成果が顕著な人を表彰する賞です。

第38回徳島医学会賞

松島 里那（代謝栄養学分野 博士前期課程2年）
「頭頸部癌化学療法中の味覚異常には味覚受容体遺伝子発現が影響する」
一原 秀光（近藤内科病院放射線科）
「大腸CTは大腸がんのスクリーニング検査に有用か」
※第254回徳島医学会学術集会（平成29年2月19日）において受賞者が選考されました。

第17回若手奨励賞

小山 広士（徳島大学病院卒後臨床研修センター）
「遅発性ジストニア (tardive dystonia) に対して脳深部刺激術を施行した5例」
加納 将嗣（徳島県立中央病院医学教育センター）
「当院でESDを行ったBarrett腺癌の検討」
※第254回徳島医学会学術集会（平成29年2月19日）において受賞者が選考されました。

平成28年度医学部優秀教育賞

<p>医学優秀教育賞 野寺 裕之 (臨床神経科学分野 講師)</p> <p>栄養学優秀教育賞 上番増 喬 (予防環境栄養学分野 助教)</p>	<p>保健学優秀教育賞 富永 正英 (放射線治療学分野 助教)</p> <p>※医学部、医科栄養学科、保健学科の教育及び学生指導に貢献した人を表彰する賞です。</p>
---	---

Best Teacher of the Year 2016

<p>医学科 木戸 玲子 (顕微解剖学分野 助教) 近久 幸子 (統合生理学分野 講師) 上村 浩一 (予防医学分野 准教授)</p>	<p>医科栄養学科 安倍 知紀 (生体栄養学分野 助教)</p> <p>保健学科 安井 敏之 (生殖・更年期医療学分野 教授)</p>
---	---

※学生の投票で決まる賞です。



医学部優秀教育賞・Best Teacher of the Year 2016 受賞者
後列左から：安倍知紀、上番増喬、野寺裕之、富永正英、上村浩一
前列左から：木戸玲子、苜原稔前医学部長、三川健前医科栄養学科長、近久幸子
(敬称略)

医学部研究奨励賞

林 裕晃（医用理工学分野 助教）
「Universal calibration curve for a small-type OSL dosimeter to be used for direct dose measurements of direct, scattered and penetrating X-rays in the diagnostic region (小型OSL線量計による診断領域の直接・散乱・透過X線による医療被ばく評価のための万能な校正曲線)」
※医学部の若手教員及び大学院の学生で、学外の学会（全国規模に限る。）及び著名な機関等から表彰を受けた人に授与する賞です。
※授与に該当する者は、医学部総務課総務係にお申し出下さい。

平成28年度徳島大学若手研究者学長表彰

桑野由紀(病態生理学分野 助教)

「超保存領域に内在された抗老化RNAコードと発がんの分子基盤」

※本学において優れた研究成果を上げ、将来が期待される若手研究者を顕彰する賞です。

文部科学省平成28年度医学教育等関係業務功労者表彰

住友哲二(解剖教育支援室 技術専門職員)

※国立、公立及び私立の大学における医学又は歯学に関する教育、研究若しくは患者診療等に係る補助的業務に関し顕著な功労のあった者を学長が推薦し、文部科学大臣が被表彰者を決定する賞です。

◆◆ 受賞者紹介 ◆◆

平成28年度 中田賞

第63回医学科卒業生(平成29年3月卒業)
辻本賀美

この度は中田賞という名誉ある賞をいただくことができ、大変光栄に思います。ご指導くださった先生方をはじめ、サポートくださった大学職員の皆様、共に学び、支え励ましてくれた友人、そして協力し見守ってくれた両親に心から感謝しております。大学生活は人との出会いに恵まれ、成長できた6年間でした。いただいた賞を励みとし、これからも誠実に医学と向き合い、自分らしく精進して参ります。

平成28年度 児玉賞

第50回栄養学科卒業生(平成29年3月卒業)
薄井静流

この度は、名誉ある児玉賞をいただき大変光栄に存じます。温かくご指導くださった先生方をはじめ、共に学んだ友人、先輩方、たくさんの方々を支えてくださったからこそ、心から感謝致します。この4年間は、様々な経験を積み、学ぶことができ、また素敵な出会いにも恵まれ、幸せな大学生活でした。今後もこの受賞を励みとし、最後の栄養学科卒業生として医科栄養学科の後輩達にも負けぬよう、日々精進して参ります。

平成28年度 看護学専攻賞

第12回看護学専攻卒業生(平成29年3月卒業)
須見千秋

この度は、名誉ある看護学専攻賞をいただき、大変光栄に思います。大学4年間は、多くの出会いと貴重な経験、成長の日々でした。温かくご指導くださった先生方や友人、そして常に背中を押してくれる家族に心から感謝しております。今、長年の夢である助産師への道を目前にし、一層身の引き締まる思いです。これまでの日々を胸に、人との出会いと支えの中で看護の道を探求できることに感謝し、今後も日々精進して参ります。

平成28年度 放射線技術科学専攻賞

第12回放射線技術科学専攻卒業生(平成29年3月卒業)
藤原亜衣

この度は、名誉ある放射線技術科学専攻賞を頂き、大変光栄に感じております。4年間ご指導くださった先生方をはじめ、共に楽しく励んできた友人たちや温かく支えてくれた家族のおかげで、本当に充実した大学生活を送ることができました。心から感謝しております。今後もこの賞を励みとし、放射線技師として医療に貢献できるよう、自分らしく精進してまいります。

平成28年度 すだち賞

第12回検査技術科学専攻卒業生(平成29年3月卒業)
森田沙瑛

この度はすだち賞という素晴らしい賞を頂き、大変光栄に思います。4年間温かくご指導くださいました先生方をはじめ、互いに努力しあった友人達、そして支えてくれた家族に深く感謝しております。今後は大学生活での学びや出会いを大切にしながら、この賞を更なる励みとし、理想の臨床検査技師に近づけるよう日々精進して参ります。

平成28年度 医学部優秀学生賞

【学生】医科学教育部博士課程3年次:森本雅俊
医科栄養学科3年次:足立雄一郎
栄養生命科学教育部博士後期課程1年次:宮武由実子
栄養生命科学教育部博士前期課程2年次:井田くるみ
栄養生命科学教育部博士前期課程2年次:新井田裕樹
保健科学教育部看護学領域2年次:板東由唯
保健学科検査技術科学専攻4年次:片寄梨子
保健学科看護学専攻3年次:眞邊友紀子【学生団体】医学科第68回西日本医科学学生総合体育大会運営委員会
保健学科看護学専攻4年次:
看護子ども応援団(17名)代表者 重松奈津子


徳島大学は、学校教育法第109条第2項の規定による「大学機関別認証評価」を受け、「大学評価基準を満たしている」と認定されました。
(平成26年3月26日)

- 認定評価機関
独立行政法人大学評価・学位授与機構
- 認証期間 7年間
(平成26年4月1日～平成33年3月31日)

編集後記



講義中、「私の学生時代と今の時代、食生活は変わっているか?」と2、3人の学生に尋ねてみた。大方の答えは、変わっていないとのことだった。数は違うが、コンビニもあったしファストフード店(ドライブレスラーはあまりなかったが)もあった。しかし、我々生活に関わるもので明らかに変化を遂げたもの、それはITである。昔は、論文一つ検索するにも図書館の端末を使用しなければならなかったし、e-mailもインターネットも無い時代だった。学生時代は、ひたすら手を動かす実験が主流だったが、今は様々な膨大な情報をどのように使うかが勝負になってきている。バイオインフォマティクスという言葉も出現してきた。また、昨年、「2,000万件もの医学論文を学習した人工知能(AI)が、専門の医師よりも診断が難しい特殊な白血病を僅か10分ほどで見抜き、治療法を変えるよう提案した」との報道がなされた。AIは、医療を変えるのか?私は、Noである。皆さんは、Yes or No、考えてみてください。(医学部広報委員会 副委員長 酒井 徹)

発行 徳島大学医学部 編集 医学部広報委員会
広報委員 六反一仁(委員長)、赤池雅史、西村匡司、高山哲治、酒井 徹、大塚秀樹、秋山靖夫、笠井嘉人、相澤心太、松田利奈子本誌へのご意見・ご要望は、(総務係)E-mail: isysoumu1k@tokushima-u.ac.jp までお願いします。
なお、写真は執筆者各位の提供により掲載しています。

Tel: 088-633-9116 Fax: 088-633-9028 URL: http://www.tokushima-u.ac.jp/med/